

日本ドライケミカルの 消防車 2012

一台で
火災・救助・救急支援
オールマイティー万能車

**A泡・B泡
対応化学I型**

Two-in-One
消火・救助兼用車

**水-I型
+救助工作車**

Simple and Beauty
オールシャッタータイプ **CD-I**

Competition
操法仕様 **CD-I**

CAFS
圧縮空気泡消火装置 **化学II型**

NDC
Nippon Dry-Chemical



オリジナル!



化学車は転倒角度の兼ね合いでハイルーフ化が難しい。現場隊員からの要望にこたえるべく、独自開発したハイルーフ。ビルトイン警告灯が地上からよく見えるという点をポイントに何度も修正を重ねた。



照明灯もウイレン製のLEDモデルを採用。

化学消防ポンプ自動車 I型

杉戸町消防本部(埼玉県)



DESIGNER'S FIRE VEHICLE

20年ぶりとなった化学車の更新で、杉戸町消防本部では思い切った方針に打って出た。先代の化学車はII型だった消防隊は災害種別や出場地域により、化学車にするかタンク車にするか、そのつど選んで出場していた。そこで、更新にあたっては、車両サイズのコンパクト化と積載キャパの拡充を狙ってI型に変更。同時に、B薬剤のみならずA薬剤にも対応させ、1台で一般火災における再燃防止や水損防止を図れるようにした。目指したのは乗り換えることなく1台で火災・救助・救急支援などに対応できるオールマイティ車両。完成度の高い車両ができあがった。

バンパーの正面と側面に加え、グリルにも補助警告灯を装備。これら警告灯はすべてウイレン製のLEDモデルを採用。



目指したのは
オールマイティの
完成度

そしてこれが、杉戸消防が作った化学車



隊名標識灯には光源に有機EL照明パネルを採用。車内側の出っ張りを防ぎつつ、メンテナンスフリーで球切れの心配もない。



後輪以降のオーバーハングの長さがポイント。同車には乗車型ホースレイヤーが搭載されているのだ。

積載庫にはガンタイプノズルと40mmホースのセットも用意されている。



エンジンカッターは引き出し式収納によりスカートボックスに収納。

ポンプ室や積載庫の照明はセンサー式。閉じている状態では点灯しないようになっている。



車上へいたるための梯子式ステップは登梯時に掴みやすくするため上段の横さんが細くなっている。

車両右サイド

右側面の状況。署外活動時に防火衣などを収納できるよう、右側ポンプ操作盤の吸管は通常取り外してある。



操作パネルには高輝度液晶モニターを採用。昼夜を問わず、表示内容をくっきりと視認することができる。

車両左サイド



一般火災にも対応するため、ホースやノズルが数多く積載されている。

スコップやスタンドパイプを収めた展開式扉収納。その隣にはローブランクが備わっている。



◀◀ Super Detail



展開式扉収納を備えた左側面。積載スペースが広いので、ゆとりを持ってアイテムの収納が行われている。

車上には放水銃を装備。



アオリは軽量化のためにステンレス製。その内側に見える手すりは自衛噴霧装置用の配管。強度を持たせることで、実際に手すりとして使用することが出来る。



細長い綿板ボックスには予備薬剤のポリタンクが収められている。

車上



後方寄りの綿板ボックスには耐熱服が収められている。

後方

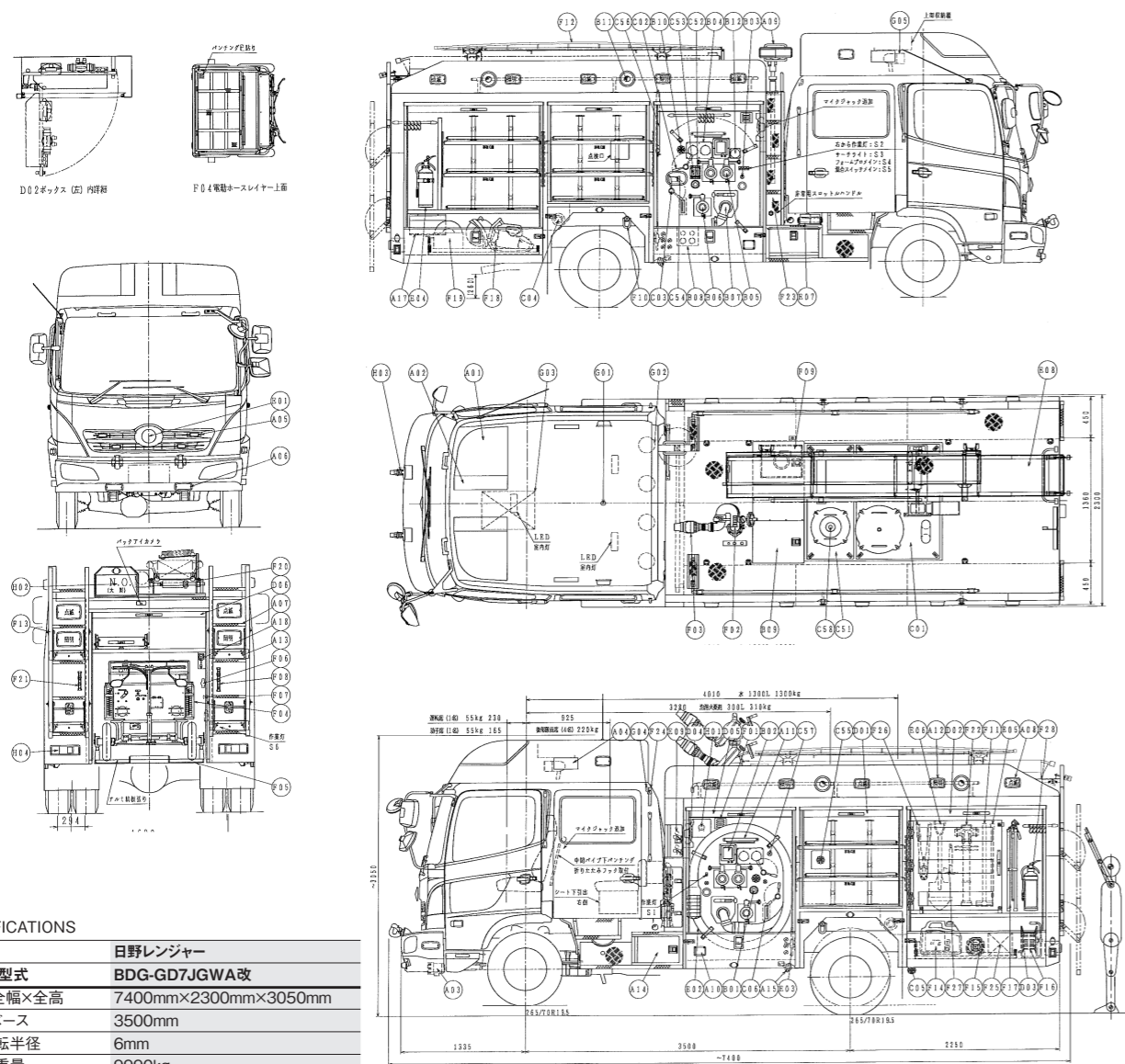
車両後部には電動乗車型ホースレイヤーを搭載。

積載梯子は電動式梯子昇降装置により容易に積み下ろしを行うことができる。

ホースレイヤー搭載部の上段は積載棚に。ここは高さがあるため、一部を傾斜式引き出しとしている。



車両5面図



SPECIFICATIONS

シャーシ	日野レンジャー
シャーシ型式	BDG-GD7JGWA改
全長×全幅×全高	7400mm×2300mm×3050mm
ホイールベース	3500mm
最小回転半径	6mm
車両総重量	9990kg
乗車定員	6名
原動機型式	JO7E
総排気量	6403cc
駆動方式	4×2
ポンプ	A-2級
水槽容量	1300リットル
クラスA消火剤槽容量	300リットル
混合方式	ポンププロポーション
配備年月日	平成23年3月14日
機装メーカー	日本ドライケミカル

車内の吊り棚に納められた水難救助対応資機材。出場途上に車内で着装することができる。



化学消防ポンプ自動車I型を運用する杉戸町消防署の隊員。

Super Detail

車内



空気呼吸器積載部上の吊り棚はあえて鏡の代わりとして使用できるようにステンレス製としている。

ハイルーフ化により最大1750mmの高さを確保した車内。



隊長席は空気呼吸器内蔵型シートを採用。

PTOスイッチはパイロットランプなどが備わっていないため、夜間は場所が分かりにくい。そこで照明を備え、容易に位置を確認できるようにしている。



センターコンソールには2台のサイレンアンプが。杉戸町消防本部では救急支援出場時にピーパーサイレンを使用することとしており、別途サイレンアンプ(写真手前)を備えている。サイレン音はメインサイレンアンプのマイク端子より入力(使用時に配線を変更)する。



松本広域消防局 麻績消防署 [長野県]

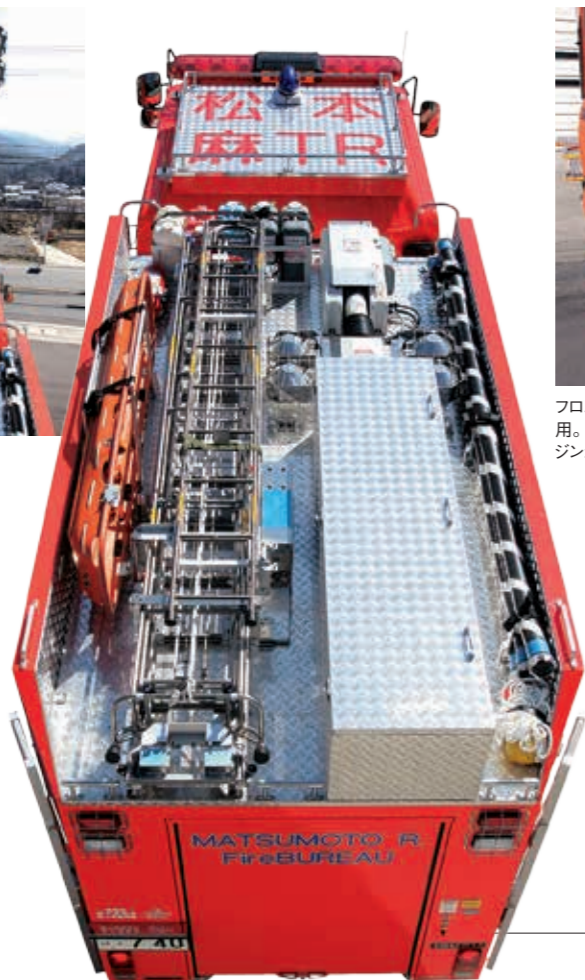
災害対応特殊 水槽付消防ポンプ自動車兼用救助工作車



照明装置には折りたたみ伸縮型4灯式のメタハラ照明装置「ナイトキャンパワライト」。設置部に雪が入り込み凍結してしまわぬよう、防雪カバーを装備。ボールの動きに連動してカバーが開く。

[車上]

救助用担架や積載梯子、吸管などが並ぶ車上。消火薬液や油処理剤などが入れられたポリタンクも車上に積載している。綿板製ボックスには使用頻度の少ないアイテムを収納。



フロントウインチは大橋機産製の電動4トン引きを採用。照明装置も動力源は発動発電機からで、エンジンからPTOで動力を得ているのは水ポンプのみ。

[フロント]



張り出しバンパーは、灯火規制の関係で下方に設置。ヘッドライトとフロントグリル下にできた隙間には専用カバーを設置。カバーはキャプチャ時に外しやすいよう、蝶ネジで止めてある。

電動ウインチだがコントローラーにてスピード調整が可能。繊細な牽引作業も容易に行うことができる。

新車情報

NEW COMER VEHICLE



[リア] はしごは取り扱いやすいチタン製三連はしごを積載。かざりきはしごと共に電動式梯子昇降装置に載る。

同車には加納式ではあるもののホースカーを装備。

[車内]



後列シートは背面に空気呼吸器を積載。ヘッドレストと引き上げ式背もたれが用意されている。



車内にフロントウインチのコントローラー接続端子があり、高速道路に出発した際に安全にウインチ操作が出来るようにと用意された。



NEW COMER VEHICLE

新車情報



蛍光朱色に身を包んだ災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車兼用救助工作車。ベースはいすゞ製5.5トン4WDシャーシ。フロントのWTRは、WaterTank/Rescueで、タンク車とレスキュー車のW機能という製作者の思いも込められている。救助資機材が載るシャッター部にのみイナズマが入る。

写真・文◎木下慎次

松本広域消防局 麻績消防署 [長野県]

災害対応特殊 水槽付消防ポンプ自動車兼用救助工作車

長野県初の消火・救助兼用車!



アオリを高くすることで車上積載物が隠れ、スッキリとした印象を演出している。

現場が欲して止まない仕様の代表と言えるのが「タンク車機能を備えた救助工作車」。火災救助の場合、救助用資機材に加えて必ず筒ポンプと水を持つ、活動しやすくなるし、運用面で考えれば消火活動にも従事できる。しかし、タンク車機能を兼ね備えた仕様の救助工作車の全国的な配備数は極端に少ない。その理由は、タンク車としての要件を満たせば、救助工作車に積載が必要な省令別表に掲げる資機材をすべて積載できなくなるからだ。名古屋消防局のように救助工作車にポンプだけでなく水槽を搭載しているケースもあるが、容量は900L程度。兼用車両といっても、重量の問題でポンプを搭載するのが精一杯というのが実情だ。

消防ポンプ自動車I-A型が長野県でデビューした。松本広域消防局である。同局は松本市、塩尻市、安曇野市と東筑摩郡を管轄しているが、この車両が配備されたのは、東筑摩郡の麻績村と筑北村を管轄する麻績消防署。この地域は四方を山々が囲む盆地で、署の直近には長野自動車道の麻績インターチェンジがあり、高速道路の災害対応もしている。同署は3交替制で通常7名勤務。タンク車、ポンプ車、救助工作車、高規格救急車といった線車両が配置されているが、7名で全車両を同時に出場させることは難しく、火災であればタンク車と救急車というように、災害内容や状況によっていずれかの車両を厳選して出場し、近隣署からの応援で部隊を補充しなければならなかった。しかし、地域的に応援部隊が到着するまでに20分以上を要するケースも予想され、迅速な災害対応には、こうした現状を打破する体制の改革が急務であった。そうした中、麻績消防署の救助工作車が更新時期を迎えた。そこで浮上した案が「1台で2役を果たす車両の導入」であった。

タンク車ベースに独自設計の積載庫

平成22年度車両更新計画に基づき製作された同車は、国庫補助事業により整備されている。補助金申請上の型式は災害対応特殊水槽付きポンプ車I-A型。タンク車に定量の救助資機材が積載されている車両が想像されるが、今回の構造は救助工作車としても遜色ない。フロントは張り出しバンパーにウインチ

松本広域消防局 麻績消防署 [長野県]

災害対応特殊 水槽付消防ポンプ自動車兼用救助工作車

新車情報

NEW
COMER
VEHICLE

今回の兼用車両の誕生により、火災出場であれば真つ先に消火活動を行い、応援の救助隊が到着せずとも、自前の救助資機材で救助活動にスライドするなど効率的な活動を図れるようになった。今後はこの車両が2台分の役割を果たし、地域の安全と安心を守っていくのだ。

「当局はもちろん、県内でも2つの機能を備える兼用車両の導入は初めて。仕様作成で難しい面があったが、メーカーの提案や協力も大きな力となり、災害時により迅速な対応が可能になる車両に仕上げる事が出来た」

この車両の製作を担当した松本広域消防局警防課の大久保幸消防司令はこう話す。

全性の高い梯子がなんととしても欲しかった。しかし、車両後部に設置可能な場所がなく、結局テーパーカット部の扉に設置するしかなかったのだ。稼動部に梯子のような荷重がかかるものを設置するのは高いリスクを伴うので、できれば避けたい構造だが、機装メーカーでは高強度の扉を設置し、そこにスライド展開式の梯子を設置したのだ。

さらに細部の仕様で注目すべきが車上への動線だろう。同車は狭隘路路進入を意識し、後部の角を取るテーパーカット加工を施している。この空間は長尺アイテムの収納スペースとして、扉を設置。実はこの扉に、車上へアクセスするための梯子を設けているのである。折りたたみ式ステップでは踏みしろも浅く、手すりもない。資機材の出し入れなどで上り下りが必須となることから、安

積載スペースは意外に広いが、スペース確保に大きく寄与しているのがサイドプル方式の吸管巻取り装置だ。ポンプ室部分にセットされた巻取り装置とオイルシャッター仕様の合わせ技により、左右後方側積載庫は丸ごと資機材積載スペースに充てることが出来ている。車上の編板ボックスとあわせれば、一般的に救助現場で必要になる資機材のほとんどを収めることが可能になっているのだ。

照明装置も全体を考えた型が選ばれている。一般的なポール式では車内側スペースがポールに奪われてしまうため、折りたたみ伸縮型のメタハラ照明装置「ナイトスキャンパワライト」を採用し、積載庫のスペース確保に配慮している。

これにより、救助資機材だけでなく加納式ホースカーの搭載も実現。一般的にはこの後方スペースを救助資機材積載庫に充てるのが定番という中で、あえて加納式ホースカーを背負っている点が、この車両のポテンシャルの高さを物語っているといえる。

ホースカーまでも積載



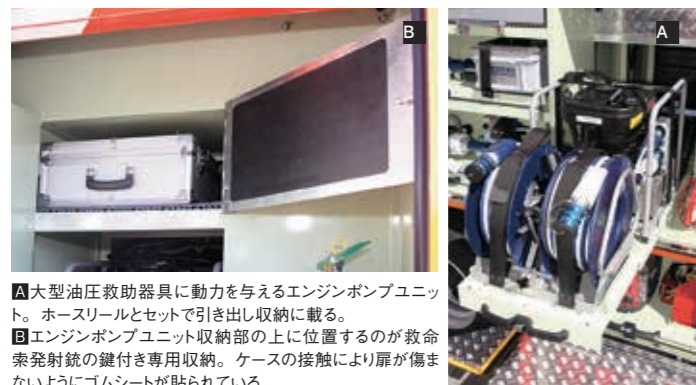
省スペースに貢献しているサイドプル方式吸管巻取り装置。吸管の設定や撤収の省力化にも繋がっている。



A 車上に積載した補助吸管の接続口。容易に設定できるソノスター金具を採用している。
B ポンプ操作盤に並ぶ電子水量計。ガラス管式では凍結防止のため冬季に使用できないので電子式を採用。



[左側面] 消火系と救助系の両立というテーマが一目で分かる左側面。ポンプ室以後は救助資機材の効率積載を目指し、緻密にレイアウトされ、ポンプ室下の即消ボックスには籐かごなども収納されている。



A 大型油圧救助器具に動力を与えるエンジンポンプユニット。ホースリールとセットで引き出し収納に載る。
B エンジンポンプユニット収納部の上に位置するのが救命索発射銃の鍵付き専用収納。ケースの接触により扉が傷まないようにゴムシートが貼られている。



交通救助などに必要不可欠な大型油圧救助器具。ルーカス製のスプレッターとカッターを専用引き出し収納に収めている。このスペースの奥に見えるのが水槽部分。



新車両が配備された麻績消防署の救助隊と消防隊、救急隊。



救命索発射銃収納部の鍵は、ピッキングに強いとされているセキュリティ効果の高いディンプルキーを採用。

左側テーパーカット部収納はローブラックになっている。扉に梯子が備わっているため、扉裏側の補強が念入りに行われている。



A とび口などの長尺モノを収めた右側テーパーカット部収納。写真は扉に設置された梯子の使用状況。こうした荷重に耐えられるよう、蝶番も高強度のものが採用されている。
B 扉に荷重がかかれば、フリーになっている開口側にどうして沈み込む。そこで白い樹脂製のスペーサーをセットしている。

[右側面] エンジンカッターやチェーンソー、ガス溶断機といった切断系アイテムや可搬式ウィンチを収めた右側面。即消ボックスにはホースと並び、枕木を収納。このあたりも救助兼用車両ならではのといえる。



牽引作業などに活用するワイヤー。ワイヤー部分にゴムホースをセットすることで、ワイヤーの細かく区分けた後方側収納部。左右に安全帯などの小物を収めるスペースを配し、中央にワイヤーを納めたボックスを収納。

SPECIFICATIONS	
シャーシ	いすゞフォワード
シャーシ型式	PDG-FSS90S2
全長	7410mm
全幅	2360mm
全高	2970mm
ホイールベース	3790mm
最小回転半径	6400mm
車輻総重量	10760kg
乗車定員	6名
原動機型式	4HK1F
総排気量	5190cc
駆動方式	4x4
水ポンプ	A-2級
ホースカー	加納式ホースカー
水槽容量	1500リットル
ウインチ/前	大橋機産CW5103D (5t)
照明装置	佐藤工業所ナイトスキャンパワライト
配備年月日	平成23年1月25日
機装メーカー	日本ドライケミカル
(契約先)	有限会社中信消防機材販売



A 照明装置に電源を供給する大型発動発電機。引き出し式収納で、排気対策を施してあるため取付のままの状態でも使用可能。手前にはカラビナや滑車、グラスソーなどを納めたボックス。
B タイヤハウス部の展開式ステップ。スタッドレスタイヤは、車重により太るのでステップ内側(積載板が貼られた面)はタイヤと接触しないよう一段掘り下げている。

消防ポンプ自動車CD-I型

鎌倉市消防本部
鎌倉消防署 七里ガ浜出張所 [神奈川県]

規格救急車ハイメディックよりも短く、いかにも小回りが利きそうな車体だ。その利点を活かすため、あえて4WDを採用せず、ステアリングの切れが大きい2WDとしている。

キャブ後方のポンプ操作盤、吸管部はオールシッター式で、車体側面には白い2本のラインが入っているのが目を引く。2本のライン間には朱色のリフレクサイトが張られ、夜間は光に反射して警鐘効果が高い。

ポンプ操作盤はスイッチの二つづつをどの位置のどの高さに置くべきかが念入りに検討。隊員がステップに乗って操作する必要がなく、すべて地上に立った姿勢のまま操作が行え、徹底的に使いやすさが追求された。ポンプには泡消火薬剤を混合するポンププロポーションナーを装着。混合する薬剤には消火後の油面上に泡消火薬剤の水溶液フィルムを形成する水成膜泡消火薬剤(サーフウォーター1%)が用いられる。これは混合比が1%なので、従来の同じ能力の薬剤に比べて積載の量が3分の1で済み、積載スペースの限られた車両に適している。

吸管は、現在は左右両側に装備しているが、右側面の吸管は将来的に積載する資機材が増えた際には取り外し、ラックを設けることにより資機材庫として使用することができると構想されている。

ポンプ操作盤の上部は資機材収納庫とし、右側面は施設可能な資機材収納庫に救命索発射銃が収納されている。これは湘南海岸を眼前に控え、水難救助事案が全救助事

七里ガ浜出張所開庁に伴う
新規配置

鎌倉市消防本部は平成23年4月17日、新たに鎌倉消防署七里ガ浜出張所を開所した。これに伴いポンプ車と高規格救急車それぞれ1台が新規配備されることになり、ポンプ車はCD-I型が3月8日に鎌倉消防署に納入され、開所の日を待った。

鎌倉市消防本部警防救急課でこの車両製作を担当した消防司令補・中嶋仁孝警防担当係長。「現場の職員から意見を聞いて、機装メーカーと綿密な打ち合わせを持ちいいところ、新しいものを足していく作業を繰り返した。鎌倉の地形特有の狭い道路が多数あり、また日本有数の観光地として市内の道路は慢性的に渋滞する。その中で出動するポンプ車はCD-I型でなければならない」と話す。鎌倉市は全域の道路すべてが狭いといえるほど道路事情がよくない。海岸線に低い山が迫り、市街地がその海岸線から山腹にかけて所狭しと並び、その中を道路が縫うように走っているからだ。また、ただ道路が狭いというだけでなく、

SPECIFICATIONS	
シャーシ	いすゞエルフ
シャーシ型式	BKG-NMR85N
全長	5990mm
全幅	1930mm
全高	2900mm
ホイールベース	2750mm
最小回転半径	5100mm
車両総重量	5765kg
乗車定員	5名
原動機型式	4JJ1
総排気量	2990cc
駆動方式	4×2
ポンプ	A-2級
ホースカー	電動乗車型
配備年月日	平成23年3月8日
機装メーカー	日本ドライケミカル

2本ラインが目目を引く
車体の鎌倉消防デザイン

こうした条件の下で完成したCD-I型は、いすゞエルフの3トン級シャーシをベースとし、日本ドライケミカルが機装を担当した。鎌倉市消防本部ではシャーシメーカーと機装メーカーを分けて入札する方式を採っており、別々の入札の結果がこの組み合わせとなった。

車体は非常にコンパクトにまとまっている。ホイールベースは2・75メートルと高

谷戸と呼ばれる行き止まりの道路も数多く存在する。観光客が集中し、渋滞も多く発生する。

しかし、海岸線から山間部まで含めてほぼすべての管轄区域が市街地というだけあって、消火栓、防火水槽、自然水などによる消防水利は市内全域に完全に整備されている。このため、これまで配備されてきた鎌倉消防のポンプ車はすべて水槽を持たないCD-I型として

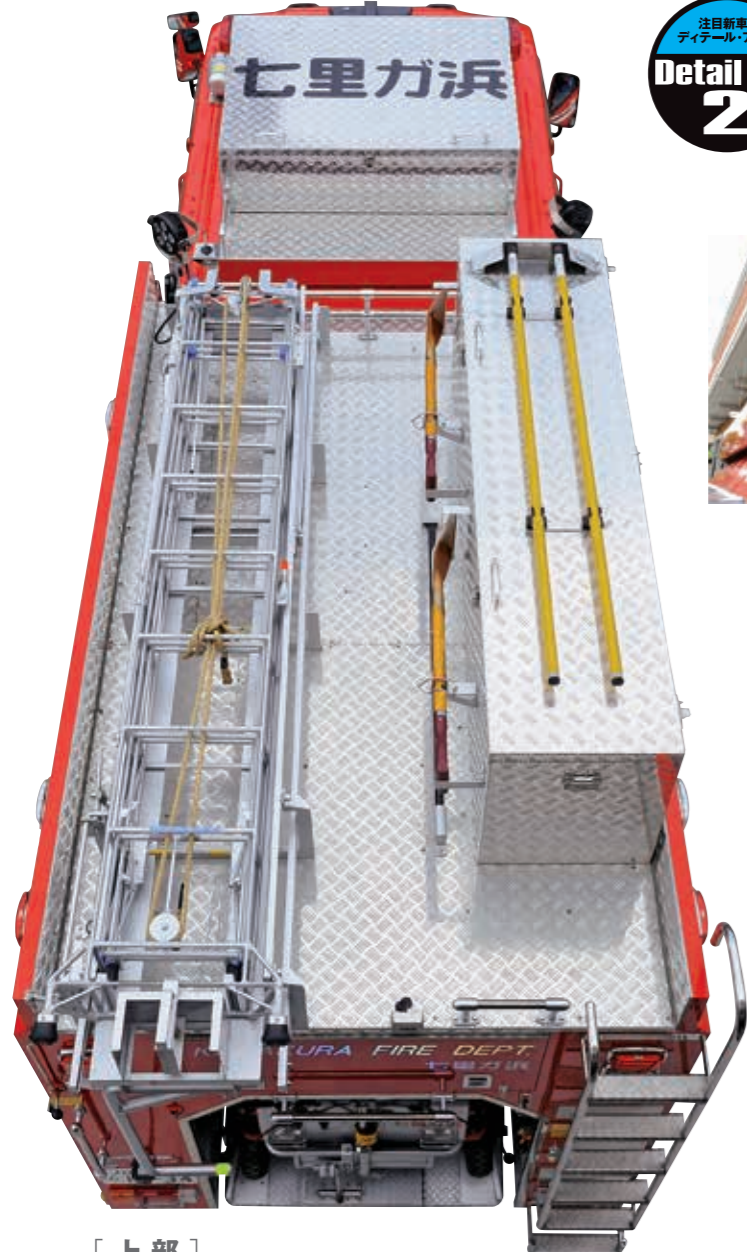
七里ガ浜地区は北と東西を山に囲まれ、他の地区との行き来は南の海岸線の国道134号線のみという地形で、道路は狭いであるが消防水利は完全に整っている。総務省消防庁による整備指針ではポンプ車の配置は市内全域に5か所以上、鎌倉市では狭い道路や渋滞に対処するため8箇所以上配置し、先着隊の到着までの時間短縮、さらにそこから後着隊の到着までの時間短縮も図られている。

新車情報 NEW COMER VEHICLE

車体前面のバンパーは現場活動を考慮してやや張り出して設置されている。



注目新車を
ディテール・アップ
Detail Up!
2



キャブの屋根上は活動スペース。資機材収納ボックス以外はアルミ縞板のむき出しではなく極力朱色にペイントされている。



三連はしごは手動昇降式。上面の高さが抑えられているため、隊員が手前に軽く引くだけで迅速におろせる。



ポンプ装置、資機材収納庫上の大型の資機材収納ボックス。サーフウォーターの薬剤、毛布、シートなどの資機材が収納されている。



ルーフデッキの小型資機材収納ボックス。浮環や救命胴衣など水難救助用資機材が収納されている。

[上部]
ポンプ装置、資機材収納庫の上面には左側に三連はしご、右側に大型の資機材収納ボックス、ダブルキャブの屋根上には小型の資機材収納ボックスが搭載されている。

鎌倉市消防本部 鎌倉消防署 七里ガ浜出張所 [神奈川県]

写真・文 © 伊藤久巳

消防ポンプ自動車CD-I型
湘南ビーチの水難、塩害に対応!

注目新車を
ディテール・アップ
Detail Up!
2



鎌倉消防署七里ガ浜出張所配備のポンプ車CD-I型。いすゞエルフ3トン級シャーシをベースとして、日本ドライケミカルが機装により製作された。

鎌倉市消防本部 鎌倉消防署 七里ガ浜出張所 [神奈川県] **消防ポンプ自動車CD-I型**



[リア] 車体後面。電動ホースカーが積載されている。右側には上部への固定式の昇降はしごが設置されている。



A



B

[乗車型電動ホースカー]

A/B/C 電動ホースカーは油圧式の昇降装置によって車体から降ろされ、隊員が乗車してホース延長を行う。ホースカーには65ミリホース10本と50ミリホース4本、二股金具などが積載されている。

POINT 防錆対策



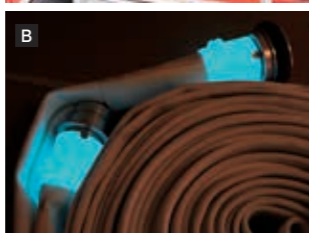
シャーシ、車体には電子防錆パーツ「ラストアレスター」の電極が設置され、常に微弱電流を流すことにより潮風による錆を防止している。



A/B 車体後面のホースカー収納部の上部は資機材収納庫になっている。ホース、金具が収納されている。鎌倉消防では署所ごとにホースの接続金具の環を色分けしており、七里ガ浜出張所は青を用いる。環は蓄光塗料で塗られ、太陽光を吸収することによって暗所でも色の識別が可能だ。



案の約2〜3割を占める年もある鎌倉市消防本部ならではの装備で、救命索に代えて膨張浮環を放射させることも可能だ。ちなみに、この救命索放射銃はライセンス不要タイプのため、隊員は誰でも扱うことが可能だ。水難救助用資機材は他にも浮環、救命胴衣などが屋根上の資機材収納ボックスに収納されている。また、資機材収納庫の左側側面には引き出し式のラックが設置されている。



鎌倉消防署七里ガ浜出張所でポンプ車を運用する鎌倉消防署警備第二課七里ガ浜第二担当。写真左から消防司令補・高橋実隊長、消防司令補・穂本裕二、消防副士長・長嶋恭裕、消防士・片野聖章。



[キャブ] ダブルキャブでは運転席と隊長席の間の空間は無線装置などを置かず、資機材積載スペースになっていることが特徴だ。後席後方には空気呼吸器のラックが設置されている。



[左側面] 2.75mという短いホイールベースが際立つ。車体全長も6mに収まる。白の2本のラインが特徴で、その間は朱色のリフレクサイト。



左側の資機材収納庫には65ミリホースと電源コードリールが収納され、これらが載るラックは引き出し式になっている。



写真左側は上に資機材収納庫、下にポンプ操作盤、左下には発動発電機、右は吸管。



右側側面のシャッターを開放したところ。キャブの直後(写真右側)はポンプ操作盤で、機関員が地上に立ったまま操作可能な低い位置にメーター類、中継口、放口2口(40ミリ/65ミリ)が並ぶ。その上は資機材収納庫で、救命索放射銃を収納しているボックスは旋錠可能。右下はサーフウォーターの薬剤タンク。

[右側面]

新車情報 NEW COMER VEHICLE



A/B 右側資機材収納庫に設けられた救命索放射銃の収納庫と救命索放射銃。先端には着水するとふくらむ膨張浮環を装着することも可能だ。



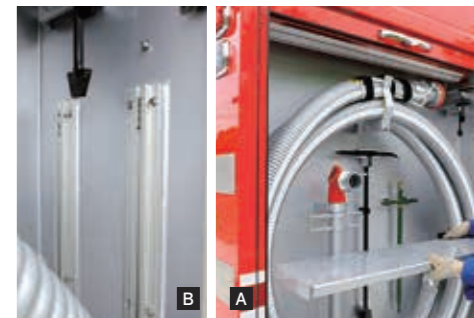
A/B ポンププロポーションャーからサーフウォーターを混合する。



車体の後部はオーバーハング部分が坂道で障害にならないよう、大きく斜めに削られている。



A/B 車体側面、ポンプ装置のボックス上に消費電力に考慮したLED式の作業灯が設置されている。暗所では車体側面の朱色のリフレクサイトが反射して光る。



A/B 右側側面の吸管収納部。吸管一式を外せば、そこに任意の高さでラックを設置することが可能な構造で、将来的にはここに救助用資機材などを積載することが可能になっている。

リアには乗車型の電動ホースカーを積載する。ホースカーのリフトは油圧昇降式で、1名の隊員の操作によってリフト降下、ホース延長を行うことができる。なお、上面へのはしごは上りやすさを追求した結果、近年の消防車両に多い展開式ではなく固定式が採用されている。ホースカー収納部の上は資機材収納庫で、ホースや金具などが収納されている。屋根上には左側に三連はしご、右側に大型の資機材収納ボックス、さらにはダブルキャブの屋根上にも小型の資機材収納ボックスが積載されている。三連はしごは積載部の高さがそれほど高くないことから、操作系統の簡略化のため手動昇降式が採用されている。

なお、海岸近くの出張所に配備され、また管轄区域はいずれも海岸が近いことから、車体に設置した電極から常に微弱電流を流すことによる錆の発生を抑える電子防錆パーツが設置されている。いかにも海辺の出張所に配置する車両ならではの装備が随所に施された台に仕上がっている。

■イカロス出版発行『レスキュー』
2011年5月号Vol.51 (2011年4月10日発売) 掲載

化学消防ポンプ自動車Ⅱ型

南越消防組合消防本部(福井県)



昨年度整備の水I-A型タンク車に続き、2台目となる圧縮空気泡消火装置(CAFS)積載車両。高速道路、山林火災、地震時における水の有効活用、中高層建物火災、耐火建物火災等における水損防止を図る目的でCAFSSを積載し、化学車として運用。夜間災害現場での安全確保のため、400W×4灯のメタルハライドの照明装置を設置した。また降雪期の対応でシャーシは低床型4WDとし、強化型スプリングに変更し、車両重量の増加に対応している。



SPECIFICATIONS

□シャシー/日野レンジャー □シャシー型式/BDG-GX7JGWA改 □全長/7007mm □全幅/2300mm □全高/2890mm □ホイールベース/3750mm □最小回転半径/6400mm □車両総重量/10700kg □乗車定員/6名 □原動機型式/J07E □総排気量/6403cc □駆動方式/4×4 □水ポンプ/A-2級 □水槽容量/1300L □配備年月日/平成23年3月4日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/東消防署

■イカロス出版発行『レスキュー』
2011年5月号Vol.51 (2011年4月10日発売) 掲載

消防ポンプ自動車CD-I型

王滝村消防団(長野県)

塗装や精密機器など細部に配慮し、車体の側板は強度の高い一枚板で塗装も厚めにし、丈夫で長持ちする消防車に仕上げられている。また故障を防止するため、ポンプ操作盤はあえて液晶板を使用しないアナログ仕様としている。照明装置は、夜間の真っ暗な王滝村で活動しやすいように、通常の35Wライトに加えてメタルハライドライト400Wの強力な照明装置を搭載した。その他、多様な水利に対応できる吸水装置を積載し、操法大会用の仕様も施している。



SPECIFICATIONS

□シャシー/トヨタダイナ □シャシー型式/BDG-ZXU378 □全長/5500mm □全幅/1880mm □全高/2650mm □ホイールベース/2800mm □車両総重量/4700kg □乗車定員/8名 □原動機型式/N04C □総排気量/4000cc □駆動方式/4×4 □水ポンプ/A-2級 □配備年月日/平成23年1月7日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/王滝村消防団詰所



消防ポンプ自動車CD-I型

豊田市消防本部(愛知県)



シャシー/日野 □シャシー型式/BDG-XZU378M □全長/5910mm □全幅/1890mm □全高/2760mm □ホイールベース/2800mm □最小回転半径/6m □車両総重量/5515kg □乗車定員/5名 □原動機型式/N04C □総排気量/4009cc □駆動方式/4×4 □ポンプ/A-2級 □ホースカー/電動手引き・加納式 □配備年月日/平成22年3月12日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/足助消防署稲武出張所

水利が確保しにくい地域のため、A-2級の車両搭載ポンプに加えて、可搬式のC-1級ポンプも積載し、近距離部署のできない現場での消火活動に対応する。車体は寒冷地仕様とし、ポンプ放水口近くにテーパーヒーターを付け、ポンプ下部には冬季の雪着防止のためのカバーを付けている。

■イカロス出版発行『日本の消防車2012』(2011年7月11日発売) 掲載

小型動力ポンプ付水槽車水Ⅱ型

佐久広域連合消防本部(長野県)

シャシー/日野プロフィア □シャシー型式/LDG-FS1EPBD-KA □全長/9200mm □全幅/2480mm □全高/3240mm □ホイールベース/5550mm □最小回転半径/7900mm □車両総重量/21975kg □乗車定員/3名 □原動機型式/E13C □総排気量/12910cc □駆動方式/6×4 □積載ポンプ/B-2級小型動力ポンプ(ラビットP572) □水槽容量/10000リットル □配備年月日/平成22年12月22日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/軽沢消防署

夜間活動用にナイトキャン150W×2灯の照明装置を搭載し、可搬のB-2級ポンプを積載。吸水口からポンプ車や化学車と連結し、連結して各車両へ送水することも可能。



水槽付消防ポンプ自動車水I-B型

相模原市消防局(神奈川県)

シャシー/日野レンジャー □シャシー型式/BDG-GX7JGWA改 □全長/7240mm □全幅/2340mm □全高/2900mm □ホイールベース/3750mm □最小回転半径/6400mm □車両総重量/9890kg □乗車定員/6名 □原動機型式/J07E □総排気量/6403cc □駆動方式/4×4 □水ポンプ/A-2級(ND2A) □ホースカー/電動乗車型 □水槽容量/1600リットル □配備年月日/平成23年3月28日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/相模原消防署、南消防署、北消防署



オールシャッター仕様とし、救助対応にバッテリー式の油圧救助器具を装備。吸管は両方向引きのサイド吸管を採用。ホースカーはヤマハの電動乗車型とし、少人数隊の活動効率を高めている。